

- ◆ 立場医院と福祉の看護婦さんとの連絡、何かあったときの連絡などをお願いすることとなる。
- ③ 神父様の霊名の祝日のお祝い： 入院で延び延びになっていたが、11月2日に差し上げることとする。
- ③ 山崎神父様のごミサの司式： 11月から行う予定。
- ◆ 神父様の希望として、香部屋の祭壇の方が低いのでこれをつかいたい由。(今の祭壇は横において・・・) 立ってミサをあげられるのはまだ無理。
- ③ 委員会の開催日程： 第一日曜日原則を確認。本月は10月8日であることは、年初に発行された年間予定表に明記されている。
尚来年度の信徒総会は、例年の1月最終日曜日ではなく第3にする必要あり。理由は、教区の会計監査や予算提出が1月末のため。
- ③ 10月7日の最終バザー委員会報告(福島さん)：
◆ 抽選方法： 楽しくやる・・・回転
◆ 買出し 荒井食品総合市場を主とする(10/21買出し)
◆ クッキーお茶の責任者、人数 確定して欲しい ⇒ 婦人会
◆ バザー決算： 壮、婦で独自でやることになったが売上集計だけは当日で、利益等については翌週としたい。
青年会： 小野寺先生経由調整中。(ビンゴの景品は婦人会にお願い?)
- ③ 湘南短期キリスト教セミナー(小野寺さん)：
◆ 中和田教会は、副委員長 石井さん、渉外担当 小野寺さん、会計担当 清尾の布陣で臨む
◆ 開催は11月11日、18日、25日、12月2日 @カトリック藤沢教会にて。
◆ 細目は11月の委員会で報告する。
11/11：坂東性純(坂東報恩寺住職) 「神と仏」
11/18：太田美智子(旧約聖書学者・NGO「地に平和」代表) 「天に栄光・地に平和」
11/25：加賀乙彦(作家、精神科医)「ザビエルと高山右近」
12/02：奥村一郎(カトリック司祭)「日本人の霊性と福音」
尚、このセミナーに限らず、中和田教会でなにか主催してやってくれないか? 討論会などでも良いとの要請があった由。ゆっくり考えさせて欲しい旨返答してある(小野寺さん)。
- ③ その他：バザーの招待状を、お世話になっている神父様方に招待状を出す。

婦人会だより

<10月15日(日) 34名出席>

- ③ 委員会報告
- ③ マリア東原政子さん、ご逝去
9月24日、25日御通夜、告別式に参列、お手伝い頂きました。塚原さんより、婦人会の方々に御礼のご挨拶がありました。
- ③ バザー当日のお手伝い分担表に名前を記入して頂く。
- ③ バザー商品値段付10月17日(火) (集会室1階 古着 2階 制作品、新品) 値段付け参加者に一任する。(バザーで、「売れる値段」をつける。) お弁当持参
- ③ バザー前日10月28日(土)午後1時ごろ集合、野菜カットなど下準備。
夕方4時のミサあります(山崎神父様)。
- ③ バザー当日10月29日(日)、午前7時作業開始。
朝早く来ていただくよう、願います。
- ③ お知らせ 11月3日(初金)10時より、婦人会会員、死者の為のミサ
- ③ 次回来年度役員候補者選出予定
次回例会は11月19日(日)、次回当番はA地区です。



壮年会だより

<10月15日(日) 12名出席>



- ③ 初めに東原さんから、先頃執り行なわれた奥様の御葬儀につき、壮年会に感謝の御挨拶がありました。
- ③ 教会委員会(10/8)の各項報告の内容 ⇒ 広報参照
- ③ 第3回バザー委員会(10/7) 福島さんから報告。
A. バザー券(福引き)抽選方法につき、楽しめてスリリングなやり方を検討の結果、ダーツを使うことになりました。
B. 上記に関連しての確認。
1. 同じ番号が出たときは引き直し。 2. 各等とも、一人の方の重複当選を認めず。
C. 賞品、食品の購入と、出店責任者と担当者。宣伝、広報などの確認と用具食器調べ
D. 昨年、不評だったマイクの性能調べ。
- ③ 壮年会のバザーへの取組み
いよいよ教会挙げてのイベントを迎える訳ですが、公私ともお忙しい皆様、今年もご無理をお願いするので甚だ心苦しいのですが、何卒御協力下さいませお願い致します。出店計画は例年通り、焼きとり、焼きそば、焼きいか、外に飲物売場と食券売場に人を配します。最低12名確保したい。その他、定例会の席ではバザー前日作業と当日作業の打ち合わせを致しました。
今年は焼きものに手慣れたベテラン何人かの方が、御都合が御悪く人手不足が心配になります。会長から何人かの方をお願いする事に成りました。フレッシュな、思いがけない後継者の誕生を期待しています。
- ③ 議案
11月の聖書朗読、奉獻の奉仕者は次の方をお願いしました。 11/5：竹内さん 11/26：小谷さん
- ③ その他
A. 東原家葬儀にあたり、規約に従い御香典を差し上げ、代表がお手伝いを致しました処、かえって過分なお礼を頂戴致す事と成りました。
B. 第5地区宣教委員の石井さんから、10/14(土)に聖母の園で行なわれました大聖年巡礼について、お天気にも恵まれ予想以上の出席者があり、盛況の裡に終了出来たことと、中和田教会からも大勢出席された事を感謝致したいと報告が有りました。
C. 湘南短期キリスト教セミナーの本年度のスケジュールについて、小野寺さんから説明が有りました。講師の方々といい、講演内容といい、今回もじっくりと聴く事が出来そうで、秋の季節に相応しい、いわば大人の味のセミナーの感が致します。
D. 秋のハイキングについて。健康を回復された山田さんから、ハイキングを実施したいと提案があり、即、決定致しました。
・いつ・・・11月23日(祝日) ・どこへ・・・鎌倉散策
ご案内のポスターと申込み用紙をいづれ貼りだします。奮ってご参加下さい。

ミサ当番表 (2000年 11,12月)

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン
11/5	年間第三十一主日	壮年会	森 脇
11/12	年間第三十二主日	青年会	森 田
11/19	年間第三十三主日	婦人会A地区	保 科
11/26	王であるキリスト	壮年会	美 底
12/3	待降節第一主日	婦人会B地区	岩 淵
12/10	待降節第二主日	壮年会	森 脇
12/17	待降節第三主日	青年会	森 田
12/24	待降節第四主日	婦人会B地区	保 科
12/31	聖家族	壮年会	美 底

当番の方は10分前には集合して下さい。ご都合の悪い方は典礼委員(萩原氏: TEL 802-6258)迄お申し出下さい。

広報 なかわだ 第263号

今月の予定

委員会	11月5日
壮年会、婦人会	11月19日
七五三御祝	11月12日
サロン	11月12,26日
レジオ	11月10,17,24日



2000年 11月号

中和田カトリック教会
広報委員会発行
泉区中田北1丁目9-1
Tel. (045) 803-6141
平成12年 11月 5日



退院のあと

山崎 正俊



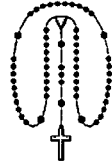
結婚式で、高島田を角隠(ツノカクシ)で当然のこのように飾っているのを、女性差別のきまりとしている、古い時代からのしきたりと思いこんでいる。それも、単なる髪飾りとしか見ていないらしい現代の人たちが、いまの時代にもおられるのかと手をあげて答えていただいた。ほとんどすべての婦人会員たちの老いも若きも、それに賛意をあらわされた。そのとき、私はたいへんな失礼をしていたらしいと、この頃気付かされる。あの日のミサのあとの講話で、「それは改めねばならないのではないか」と強調しておられた講師の胸には、鋭い針が突き刺さったであろうことに、平然としていた。

そのように時代は変わっており、カトリック教会の中でも、聖パウロと聖ペトロを同じ日に毎年祝日を重ねて祝っているのを「奇妙なこと」と感じはじめていたような私の思いを、どのように受けとめておられるのかを確かめようとの質問でもあったのは、聖書の言葉を軽く読みすごされている程度を、調べたかったからであった。それは、25年も以前の日のことであったが。

あのときの田中先生のご本心はどこにあったかを、えらそうにも小馬鹿にしていたと、いまの私は、はっきりと、恥じている。弁解のしようもない。知らぬこととはいえ、何という軽薄さであろう。福者パウロ・モンタルさんのお心も悲しませていたこと、胸痛めてみてもどうにもならない。私の母の心を傷つけて83年近くになっての償いの日は始まり、おそまきながらの「有難さよ」。いまになって、神様のおはからいの奥深さを身にしみて思う。――

東京教区の沢田神父の「よきサマリア人」についての学連でのお話の中で感動させられたお言葉。あの善意とお祈りとに溢れた、心からのお叫び。―― ご本人は記憶しておられなかったらしい。―― 永年の間、現代においても、ひどく差別されているほどなのに、そのことは気にならないほどの、優しい親身なおはからい。あの思いやり深いおこない「隣人愛」。イエズス様は、「あなたもそのようにしなさい」ではなく、「そのようなことしかできない人になりなさい」と、おすすめてになっておられる。―― この説明を、それ以来、新約聖書のそのところを読むたびに思い出しては、イエズスさまの尊姿(ミスガタ)を見る。―― 時宗(ジシユウ)の御開山・一遍上人(イッペンショウニン)。アウシュビッツのコルベ神父。インドのカルカッタで始まったマザー・テレサの奉仕。アシジのフランシスコの貧しさに徹した「神の在すところの平和」。仏(ホトケ)の慈悲のきわみ「忘己利他」の「捨て聖(ステヒジリ)」の尊姿(ミスガタ)―― その遺体さえも野に捨てよというほどで、「念仏札の賦算(フサン)と念仏踊りのすすめ」。「聖(ヒジリ)は跡なきを跡とす」。

(2000. 10. 17)



手術をめぐる日々のあれこれ

竹内 広治

思いもよらぬ病名を告げられ思わず息を呑んだ。自覚症状はもとより、痛くも痒くも覚えなく当然のことで、俄には信じられないことである。納得出来ず、何ともいえぬ落ち着かない気持ちなのに、手術前の検査が、これでもかこれでもかと小突く様に続けられる。流石に疲れてぐったりしてしまい本当の病人になってしまった感じがして気息奄々の有様だ。これからの長い入院生活をあれこれ想像するとなんと心細く、気持ちが落ち込んで我ながら情けないことである。

所在ないまま、持ち込んだ着替えやら何やらの荷物をまさぐっていた時、手に触る物があつた。それは久しく手にしない、忘れかけていたコンタツであった。入院にあたり荷物を纏めるとき不安を打ち消す気持ちが、祈禱書と一緒にしまいこませたかと思う。落ち込んでいた気持ちを取り直し、これらは全て神様の思し召しだと神妙な気持ちで黙想に入るが、好奇の目が周りにいっぱいある気がして没入できぬ、不信心への試練なのだと言いつつも聞きかたし、不肖のしもべは心の片隅にこの病気が誤診かも。さすれば今の内なら間に合うし、この診断は許してやっても良い気分なのだと思ふたつぷりなのである。あれこれと未熟な思索が頭の中を駆け巡り、お陰でなかなか寝つかれない。

手術を明日に控えた日、ベットの回りは一日中ざわめいた。執刀する主治医がいつになく神妙な顔付きであれこれ話をしてくくと、続いて麻酔医がいろいろ質問をなげかける。病棟付きの看護婦さんが手際よく、手術の後に必要なタオルや下着などをチェックして纏めてくれる。

昼食が済むといつもはそれぞれ勝手に休息するのだが、今日ばかりは同室の衆が三々五々ベットの回りを取り囲み、あれこれ何かと教えてくれる。すでに手術を済ませて身体も口も軽やかになった人や、病院を出たり入ったりした病棟のヌシみたいな人とか、手術日の決定がまだ確定せず、退屈万端な毎日を送っている人達である。「いよいよですね。あの先生の腕は確からしいから大丈夫ですよ」とか、「苦しい時は遠慮なんかしないで、ぼんぼんこたしたらいいですよ。ここの看護婦さん達は揃って親切だから」「昼食何かリクエストしましたが手術前は特別食なんだけどな」何もないと答えると、「婦長さん忘れたな。勿体無いことをしましたね」などと賑やかなこと。語った言葉の半分は労りで、残る半分は脅かしか冷やかしか。

夜も更けた。同室のお仲間さん連の健康? そうな、安らかな寝息が聞こえる。不思議だ! まったく不思議だ。ここは病院、しかも消化器ガン病棟ではなかったか。入院前のガン病棟のイメージは暗く何処からともなく呻きや鳴咽の音が洩れてきて、哀切な思いが支配する雰囲気なのだろうと大袈裟に考えていたが、入院してみてもびくつき仰天。如何に病気に無縁であったにもせよ、医療や病院設備の進歩や変革の速さに驚いた。仲間が言う、「胃ガンなんて昔の盲腸と同じさ」実感させる言葉である。

「おやすみになれませんか?」ふと優しい声に気がついて振り向くと、夜勤の看護婦さんである。「明日はオペですね。精神安定剤お持ちしましょうか?」「有り難う。ただお腹が空いて眠れない」看護婦さんはクスと小さく笑って出ていった。明日に備えての夕食抜きが今頃効いてきたのか、胃がグーと鳴った。思えばこの時まで胃は確かにこの身体の中にあつたのだ。もう二度とこの音を聞く事は出来ない。……夜が明けた。いよいよである。時間がたつにつれ緊張の度合いが高まって行くのが手に取るように判る。手術に適した下着に着替えると間もなく、看護婦さんが二人ストレッチャーと共に現れる。移し換えられ首筋に弛緩剤を注射されて時間待ち。「さあ参りましょう」看護婦さん二人に案内され、家族が付き添っていいよ病室を出る。同室の仲間が口々に「頑張って」と言いながら手をふりふり見送ってくれる。入院してから今日迄ですべて何人も見送ったが、自分の番となると妙に照れくさい。でもやっぱり格好つけて堂々とした様子を見せたいと、笑って手をふらんとしたが、先程の麻酔が効きはじめたか手足も動かず瞼も開かず、いつしか白い闇に沈んでしまう。

ふと気がついた。目を開き周りを見回すと見慣れぬ機器が微かな低音を響かせて並んでいる。緑色の手術衣をまとった看護婦さんが気づいて「お目が覚めましたか? オペは無事終わりました」「ここは何処」「集中管理室ですよ、経過がお宣しいから明日は病室へ帰れます」マスクの内に微笑があつた。聞いている内、正直なもので急に喜びが全身を駆け巡り、思わず大声で何かを叫びたくなった。忘れていた素直に喜ぶ気持ちを思いだせたことが何よりも嬉しい。暫くは闘病生活をどう体験し、如何に今後の精神向上の糧とするか。病いは人生を見つめ直す機会。神の大きな計らいの一つか。



神山復生病院を訪ねて

N. K

「神山復生病院」と「井深八重」。私がこの二つの名を知ったのは、少し恥ずかしいのですが、最近のことです。

9月21日、お天気は晴、婦人同志会主催の巡礼の旅に、中和田教会の十数名の方々と共に参加しました。この病院は、明治20年、フランス人のテストヴィド神父様が、水車小屋にハンセン病者として隔離されていた婦人と出会い、救済のために家を借りたことが始まりとのことでした。また、井深八重さんは、婚約していたのですが、ハンセン病の疑いでこの病院へ連れてこられ、それが誤診だと分かった後も病院に留まり、ハンセン病の人たちの看護に尽くし、平成元年5月に92歳で亡くなりました。

私は、井深八重さんがお祈りし、働いた場所に行けて「神に感謝!」です。私たちを乗せた観光バス2台は、御殿場の町から少し離れたところにある神山復生病院の手前で止まり、私たちはそこから歩いて黄瀬川を渡りました。橋の向こう側の人生とこちら側の人生を考えながら……。少し行くと、緑の木立の中に、真っ白い制服のシスターが笑顔で私たちを迎えてくださり、お聖堂へ案内していただきました。きのこが生えてくるという聖堂は、近々壊されるとのこと。チョッピリ感傷的になってしまいました。そしてそこで、巡礼に同行されたお二人の神父様のごミサに与りました。

午後からは、今もここで生活しておられる元患者のFさんのお話を伺いました。Fさんは私と同年代。12歳で連れてこられ、もう40年になるそうです。お母様が生きておられれば90歳くらい。兄弟もおられるのですが全く音信がなく、「肉親からは見捨てられましたが、イエス様が私を必要としていると思えるようになりました」と、そのようなお話だったと思います。また、「当たり前前にできることを、当たり前と思わないでください」と言われた時は、わが身を振りかえりドキッ!としました。淡々と語っている間、私たちに笑顔を見せることはありませんでした。Fさん、貴重なお話をありがとうございました。

その後私たちは、神山復生病院に関わりのある方たちが眠る墓地へ。私のいちばんの目的、井深八重さんのお墓には「一粒の麦」の文字が刻まれ、真紅のバラが供えられていました。合掌。

墓地を後にして、バスは、うしろに富士山をひかえた富士吉田教会へ。お祈りをして、再びバスに戻り、帰路は、同乗の市岡神父様がこれからの教会のあり方、神父様になられた動機などを話して下さり、とても興味深く聞くことができました。

バスが横浜に近づく頃、この旅を企画してくださった方々に感謝しつつ、この日もたくさんのお恵みをいただいた思いでいっぱいでした。

委員会だより

<10月8日(日) 11名出席>

[1] 財務報告: 00.9月度決算報告 ()内:00年度年間予算

	00°収入累計	00°支出累計	収支差額
一般会計	5,141,156 (6,257,868)	4,730,034 (6,157,868)	411,122 (100,000)
建設会計	3,375,264 (3,356,956)	1,203,890 (2,795,000)	2,171,374 (561,956)
愛の献金	587,726 (780,065)	210,662 (320,000)	377,064 (460,065)
信徒預金	119,375 (619,375)	100,000 (440,000)	19,375 (179,375)

>特記事項: ●一般会計: 9月度単月収支が大幅赤字(-447,812円)だったのは下記事情による

- ・勘定が9月30日であったこと
- ・バザー準備金を一般会計で一時立替
- ・渉外費から大和教会50周年祝に30,000円出した
- ・ミサ謝礼として、8月27日分と10月1日分が9月度会計から支出している。

(注: -11月度より、山崎神父様ご自身でミサをあげられるので祭儀費支出は減る予定。
-また、今後の賄い謝礼は山崎神父様ご自身がされるので、教会会計とは分離される。)

[2] 議事内容:

- 七五三のお祝の件: 11月12日に行う。お祝い品はメダイと鈴。
- 第五地区巡礼の件(細目/変更点説明; 石井(三)さん):

- 10月14日に予定通り開催
- 9/24時点では、300名以上出席者を見込んでいる。
- 各教会色別名札(中和田はピンク)を付ける。当日混雑するので、出来るだけ前もって名前を入れておく。
- 中和田は主任司祭欠席なので、なるべく多くの人の出席をお願いしたい。
- 受付は、石井さん、清尾さん、七浦さんが担当(他に藤沢2名、原宿1名)。
- 共同祈願を各教会一つずつ準備することになっており、中和田のテーマは「若い人」。既に位田さんより萩原さんに準備をお願い済みで、当日読上げるのについては、岩崎さんをお願いした。
- 侍者は各教会より一人ずつ要請されているが、登校日であり、小中生は難しい。いろいろあたってみることを位田さんをお願いした。
- 前日の設営の協力要請に対しては、竹内さんと石井さんが対応する。
- 駐車場整理の都合上、途中で退場する人は予め言っておいて欲しいとのこと。
- 尚当日10時に、車で行く人が中和田教会で、いかれる方をピックアップして会場に向かう由。
- 食事、飲み物は持参が基本、敷物も持参したほうが良い、ゴミは必ず持ち帰ること。
- 各教会が何か出し物を出さなければならないことはない。
- またお金は寄付の形で既に委員会より出している。強制的要素は無く、献金等を募ることはしない。
- 神父様介護再認定(12月の予定):
- 緊急連絡先については、委員会総意として、位田さんをお願いする。